

普及活動情勢報告

情勢報告（平成29年4月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

有望品目「サトイモ」の疫病予防を呼び掛け ～サトイモ生産部会反省会の開催～



反省会の様子

4月4日、JA四万十本所においてサトイモ生産部会の反省会が開催され、11名が参加しました。

今年は前年の2倍の4haの栽培面積となり、JA四万十管内で有望な露地品目として注目されているサトイモですが、県外では疫病による被害が広がっており、普及所とJA営農推進課から予防の徹底を呼びかけました。3月31日には戸別訪問による啓発チラシの配布も行いました。

今年の栽培農家が次年度以降も栽培を続け、産地が拡大していくよう支援します。

環境制御技術を学ぼう！ ～JA四万十興津地区園芸農家研修会の開催～



担い手育成センター
視察の様子

4月14日、JA四万十興津地区の園芸農家が担い手育成センターと四万十町次世代施設園芸団地の視察を行い、14名が参加しました。

興津地区では、施設園芸で環境制御技術や養液栽培の導入を推進しています。そこで、これらの普及促進のため、普及所から視察の提案をしました。

視察では、普及所と担い手育成センターの職員が説明を行い、環境制御技術等の理解の促進を図りました。農家からは最新技術に触れ、「思ったよりもハウス内が暑くないがどうしてか」などの質問がありました。また、JA指導員からは今後の定期的な視察の意向が示されました。

今後も栽培技術と農家所得の向上を目指して支援していきます。

高知県初！県西地区の‘にこまる’が「特A」を取得 ～知事報告会～



知事報告会

3月29日、主産地を支えているJA四万十エコ栽培米生産部会部会長と四万十町役場の職員とで知事へ「特A」取得を報告しました。

（一社）日本穀物検定協会が行う米の食味ランキングで、四万十町を含む県西地区の‘にこまる’が県産米として初めて最高評価の「特A」を取得しました。

普及所は、‘にこまる’の高品質、良食味生産に向けて、部会やモデル農家に対して、講習会や現地検討会等により栽培技術の改善に取り組んできました。

今後も、このような評価が得られる産地として継続できるよう、関係機関と連携し、高品質、良食味生産に向け栽培技術等を支援していきます。

中山間農業複合経営拠点の設立に向けて～（一社）四万十農産設立総会～



広域連携組織の設立

4月19日、影野町民会館で拠点となる一般社団法人四万十農産の設立総会が開催され、影野小学校区内の構成員となる4組織20名が参加しました。

普及所は、拠点となる四万十農産の設立に向けて、組織体制や事業内容、機械・施設の整備計画、収支計画等の作成、土地利用型作物の導入に向けた先進事例の視察研修などを支援しました。

集落営農組織や法人の広域連携組織である一般社団法人の設立は、本県では初めてであり、これからの集落営農や地域営農の仕組みのモデルとなることを期待しています。

また、このような拠点が四万十町内に増え、農業を支え、稼ぐ法人となるよう今後も関係機関と連携し支援していきます。